

特集

「益田氏 VS 吉見氏」展

◆開幕迫る！

この秋、鳥根県立石見美術館では、特別展「益田氏 VS 吉見氏」が開催されます。

この特別展では、室町時代から安土桃山時代にかけて、益田を治めた益田氏と、鹿足郡を治めた吉見氏について、その歴史と文化を振り返ります。

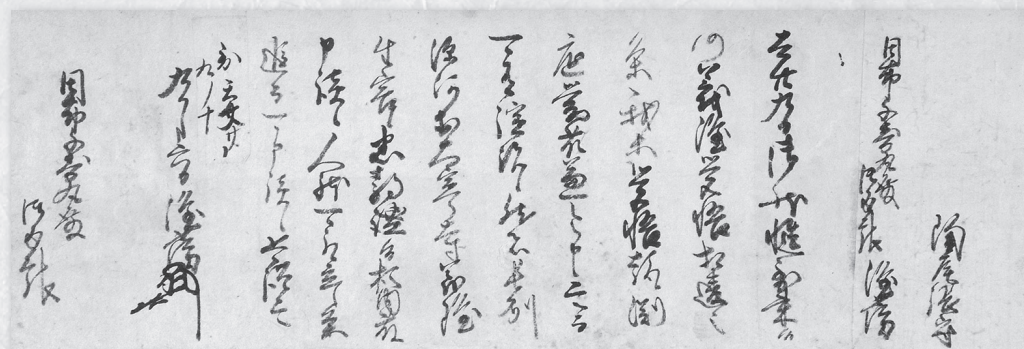
益田氏と吉見氏はライバル関係にありました。特別展では、その歴史を大きく3つの視点から紹介することとしており、この特集ではこれを簡単に紹介します。

より詳しく知りたい方は、『広報ますだ』の平成31年4月号から『中世益田講座「益田氏 VS 吉見氏」』を連載していますので、そちらもあわせてご覧ください。

視点1 長い長い対立の歴史

益田氏と吉見氏は、室町時代初め頃から戦国時代後半に至るまで、約200年間にわたって対立関係にありました。両氏の険悪さには、中央政権である室町幕府や山口の大名大内氏も、その対応に頭を悩ませました。さらに両氏の対立は、応仁・文明の乱、陶晴賢の下剋上、大内氏の滅亡、戦国大名毛利氏の覇権確立という、中国地方西部の大きな歴史的画期にも大きく影響を与えました。

益田氏と吉見氏の対立の歴史、中国地方西部の歴史に与えた影響、そして、両氏の狭間にあって必死に生き抜こうとしていた人々の歴史を、古文書や地域に残る文化財から紹介します。



陶隆房(晴賢)書状(益田市所蔵周布家文書、益田市立雪舟の郷記念館蔵)

陶晴賢の下剋上に、益田藤兼が積極的に協力していたことを示す古文書。この後、益田氏・陶氏連合軍は吉見氏に大規模な攻勢をしかける。

特別展「益田氏 VS 吉見氏 — 石見の戦国時代 —」

会 期：9月5日(木)～11月4日(月・振) ※毎週火曜日、10月23日(水)休館(10月22日は開館)
10:00～18:30(入場は18:00まで)

会 場：鳥根県立石見美術館 展示室 A

主 催：益田の歴史文化を活かした観光拠点づくり実行委員会

(鳥根県立石見美術館、公益財団法人しまね文化振興財団、益田市、益田市教育委員会、
益田「中世の食」再現プロジェクト、益田商工会議所、一般社団法人益田市観光協会)

協 力：東京大学史料編纂所、公益財団法人古代学協会、国立歴史民俗博物館、鳥根県教育委員会

視点2 高い文化性

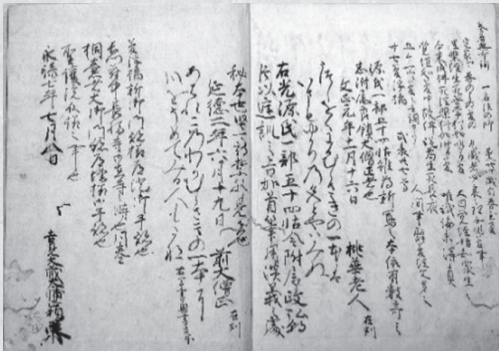
益田氏と吉見氏は、政治的、軍事的にライバル関係にあっただけではなく、文化的にもライバル関係にありました。

益田氏とえば、雪舟を招いて益田兼堯像を描かせたほか、萬福寺と医光寺に庭園を築かせ、益田に室町文化を花開かせました。これ以外にも、萬福寺の本堂や染羽天石勝神社の本殿、仏画や仏像にも優れた遺産が伝わります。

吉見氏も負けてはいません。鷲原八幡宮の本殿などの建造物、鷲舞や流鏑馬といった中世以来の文化が津和野には色濃く残ります。

さらに、戦国時代の吉見正頼は、自ら研いだという刀・吉見左文字や、作成した琵琶が現存しているほか、源氏物語の最善本とされる大島本源氏物語を一時所蔵しており、いくつかの源氏物語を比較していた可能性も指摘されています。

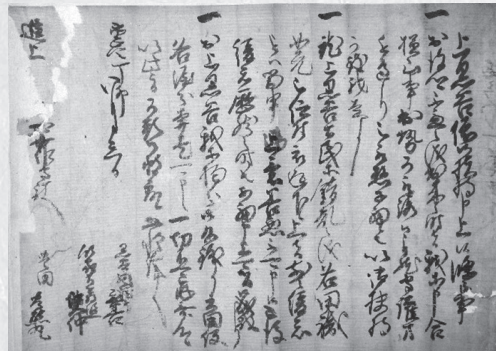
かたや雪舟と親しく交わり、その傑作を多数残した益田氏、かたや自らの様々な文化遺産を作成し、源氏物語の最善本を伝えた吉見氏。彼らによって当時の石見は全国屈指の文化水準にあったと言えます。



重要文化財 大島本源氏物語

(古代学協会蔵、京都府京都文化博物館寄託)

「夢浮橋」の奥書。永禄7(1564)年に「桐壺」と「夢浮橋」の二巻を聖護院門跡に書写してもらったと吉見正頼が記しています。



重要文化財 豊田豊熊丸外二名連署言上状案
(毛利博物館所蔵文書)

益田氏と吉見氏の対立の激しかった上黒谷で、地域の中小規模の領主が、危機の際には横山城に駆けつけると誓った文書。

V

吉見氏

視点3 交易への熱い関心

益田氏と吉見氏は、日本海を越えた先にある遠い地域との交易への関心でもライバル関係にありました。

益田氏は、朝鮮半島の虎皮や蝦夷地(北海道)産の昆布・数の子を手に入れたことなどが古文書から明らかになっており、交易により経済力を蓄えたとして「海洋領主的性格」が指摘され、さらに、中須東原遺跡などの発掘により、考古学的にも裏付けられました。

吉見氏も負けておらず、琉球や朝鮮半島との交易上、重要な領主たちと提携関係を結び、益田氏と戦って良港の多い長門国阿武郡(山口県北部)沿岸部を奪取しています。

また、高津川は石見西部の流通の大動脈であり、その下流域をめぐって両氏は激しく争いました。



華南三彩貼花文五耳壺
(萬福寺所蔵)

益田氏が寄進したと伝わる。益田氏の南蛮貿易の可能性を示唆する。



島根県指定文化財 陶製経筒
(豊田神社所蔵、島根県立古代出雲歴史博物館寄託)

豊田神社の奥の院石塔寺権現から出土。高津川・匹見川が合流する豊田(横田町・神田町)の重要性を物語る。

★ 関連イベント等

この秋は、特別展関連イベントをはじめとして、益田の歴史文化に関する各種イベントが予定されています。

内容も、歴史を楽しむものから、より深く研究するものまで、また、全国的な学会や山口県萩市須佐との連携事業などさまざまです。

※各イベントの紹介の中で、主催者の記載がないものは、益田の歴史文化を活かした観光拠点づくり実行委員会が主催するものです。

◆ 開会式

日時…9月5日(木) 9:30～
会場…島根県立石見美術館ロビー

※申込みが必要です。

9月4日(水)までに電話またはFAXで左記まで申込みください。

申込先…市文化財課

☎ 31・0623

FAX 24・1380

特別展の開会式を開催します。セモノーの後、展示解説を行いますので、コレクション展観覧券またはミュージアムパスポートが必要です。

◆ 「よみがえる戦国の宴 其之五」

日時…9月14日(土) 13:00～
会場…グラントワ多目的ギャラリィ・展示室A

出演…塩高和之(琵琶)

田中黎山(尺八)

料理提供…益田「中世の食」再現プロジェクト

定員…限定40席

入場料…3,500円(料理・お酒付)

※コレクション展観覧券またはミュージアムパスポートが必要です。

チケット販売…グラントワ総合案内カウンター

(☎ 31・1871)

益田藤兼・元祥が毛利元就をもてなした「祝い膳」を再現した料理と、琵琶の演奏を味わう催しです。

◆ 特別講座「益田氏 vs 吉見氏」

日時…10月12日(土) 10:00～11:30
会場…グラントワスタジオ1

講師…中司健一(益田市歴史文化研究センター主任)

定員…150名(申込不要/聴講無料)
共催…石西の文化を学ぶれんげ草の会

特別展の前提となった東京大学史料編纂所一般共同研究「中世石見国高津川流域の史料調査と研究」の成果を詳しくお話しします。

◆ ギャラリートーク

日時…9月22日(日)、10月19日(土)、
11月4日(月・振)
各日とも14:00～

会場…グラントワ 展示室A

定員…なし(申込不要/聴講無料)

※コレクション展観覧券またはミュージアムパスポートが必要です。

展示内容を解説します。この日程以外にも展示解説を受付けますので、グラントワまたは文化財課に申込みください。なお、日程によってはお受けできない場合もあります。

・グラントワ ☎ 31・1860

・市文化財課 ☎ 31・0623

◆ まわって集めよう!

益田氏・吉見氏の武将カード

期間…9月5日(木)～11月30日(土)
場所…島根県立石見美術館、萬福寺、

医光寺、益田市立雪舟の郷記念館、萩市須佐歴史民俗資料館、

永明寺(津和野町)

※施設により配布期間が異なります。

各施設を観覧・拝観された方に武将カードを配布します。「吉見正頼」を益田市出身のイラストレーター乃希さんに作成していただきました。

◆ 特別展関連バスツアー

日時…初級者コース 9月8日(日)
上級者コース 10月13日(日)

※各日とも7:00集合

※集合場所は、県益田合同庁舎またはJR益田駅

場所…益田市内、津和野町内を回ります。

定員…初級者コース 27人(要申込み)

上級者コース 19人(要申込み)

参加料…4,000円(昼食別)

申込先…石西の文化を学ぶれんげ草の会

☎ 090・3176・5904

FAX 22・6927

※申込みの際に、氏名、住所、電話番号(当日連絡がつくもの)、集合場所をお知らせください。

主催…石西の文化を学ぶれんげ草の会

吉見氏に関連する史跡、神社、仏閣を中心に回るバスツアーです。益田市職員および津和野町職員が解説します。



吉見正頼のイラスト

◆2019年度日本古文书学会大会

「古文書学への招待」

ひらかれる研究の窓」

公開講演

日時…9月14日(土) 13:15～

会場…グラントワ小ホール

講師…①長谷川博史(島根大学教育学

部教授)「出雲国の戦国争乱

と中世文書」

②仲野義文(石見銀山資料館

館長)「徳川政権による石見

銀山支配と大久保長安」

定員…400名(申込不要/聴講無料)

研究発表

日時…9月15日(日) 9:00～

会場…グラントワスタジオ1

内容…15本の研究発表

参加費…500円(資料代)

※日本古文书学会会員は無料

主催…日本古文书学会

共催…益田市、益田市教育委員会、

島根県教育委員会

後援…島根県

問い合わせ先…日本古文书学会

✉gakukai@komonjo.sakura.ne.jp

日本最大の古文書研究の学会である日本古文书学会の今年度の大会が、益田市を会場に開催されます。

◆萩市須佐歴史民俗資料館

企画展「旦那様がやってきた」

「益田から須佐へ 近世益田

家の幕明け」

会期…9月7日(土)～11月24日(日)

9:00～16:30

※月曜日は休館(月曜日が祝日の

場合は開館、翌火曜日が休館)

会場…萩市須佐歴史民俗資料館

第一・第二展示室

(山口県萩市大字須佐 4441-10)

入館料…高校生以上:310円

小・中学生:150円

主催…萩市、萩市須佐歴史民俗資料館

「みこと館」

後援…益田市、益田市教育委員会 他

関ヶ原の合戦後、益田を去らざるを得なくなった益田氏は須佐へと移ります。以後、益田氏は長州藩の永代家老家として政務にあたる一方、領主として須佐を大きく発展させました。

益田氏が須佐に移ってきた経緯や、その後に須佐がどのように変わったのかなど、「須佐への移封」をテーマに企画展が開催されます。

この企画展は、益田市での各種行事との連携を強く意識して開催されるもので、期間中は、益田から須佐、須佐から益田の双方方向の見学バスツアーも予定されています。

◆萩市須佐歴史民俗資料館

シンポジウム「中世の益田家・

近世の益田家」益田地域・須佐

地域の現在・過去・未来」

日時…10月14日(月・祝)

13:00～15:15

会場…萩市須佐文化センター

(山口県萩市大字須佐 4570-1)

◆コーディネーター

樋口尚樹(松陰神社宝物殿至

誠館館長)

◆登壇者

山本浩章(益田市長)、藤道健二

(萩市長)、中司健一(益田市歴

史文化研究センター主任)、重

田麻紀(萩市須佐歴史民俗資料

館特別学芸員)

参加費…300円(資料代)

定員…なし ※申込みが必要

申込先…萩市須佐公民館

083387・62310

主催…萩市

共催…益田市、益田市教育委員会

「益田家」という歴史的に大きな共通点を持つ益田市と萩市須佐とで、互いの地域についての理解と交流を深めることを目的に開催されます。それぞれの歴史の特色、歴史を活かした取組とその課題、今後への展望などについて、意見交換を行います。

◆第112回 歴博フォーラム

「中世益田の世界」

日時…11月2日(土)

10:00～16:30

会場…グラントワ小ホール

内容…研究報告とパネルディスカッ

ション

定員…400名(申込不要/聴講無料)

主催…国立歴史民俗博物館

共催…益田市、益田市教育委員会、石

西の文化を学ぶれんげ草の会

問い合わせ先

国立歴史民俗博物館

広報サービス室

043・486・0123

千葉県佐倉市にある国立歴史民俗博物館は、歴史学・考古学・民俗学に関する国内最大の博物館であり、大学・研究機関でもあります。

同館は平成28年度から30年度にかけて、共同研究「中世日本の地域社会における武家領主支配の研究」を、益田市域を基軸事例として実施し、中世石見国高津川・益田川下流域社会の実態解明が大きく進みました。

その成果を発表するとともに、パネルディスカッションを行い、中世の益田の地域社会像についての理解を深めます。